

成果の検証と改善

成果の検証と改善に向けて

環境保全に資する施策や事業は、市民・事業者・行政の協働のもとに推進します。その実施状況については、環境マネジメントシステムなどの手法を活用してPDCAサイクル（Plan：計画、Do：実施、Check：点検、Action：見直し）により、効果的に環境保全施策を推進することを目的として毎年点検・評価することとします。

実施した施策や事業などが、目標に対してどの程度達成できたかを客観的に評価するために、数値目標を掲げることとします。評価は、年次報告として「環境白書」に取りまとめるとともに、市のホームページに公開することとします。

環境みらい像

成果の検証と改善

「着実に成果をあげているまち」

環境への取組み

- 環境マネジメントシステムの構築
- 進捗管理体制

環境マネジメントシステムの構築

推進体制

市民

- ・ 環境保健委員会
- ・ 環境市民会議（仮称）

事業者

- ・ 太田地区産業環境保全連絡協議会

行政

- ・ 環境審議会
- ・ 環境庁内会議

※環境保健委員会：市民の生活環境の保全と保健衛生の向上を図るための地区行政組織。

※環境市民会議：環境の保全等に関する基本的事項について調査検討する市民組織。

※太田地区産業環境保全連絡協議会：産業公害の防止及び環境保全を図るための事業者組織。

※環境審議会：環境の保全等に関する基本的事項について調査審議する組織。

※環境庁内会議：環境に関する行政各部の連絡調整を図るための会議。

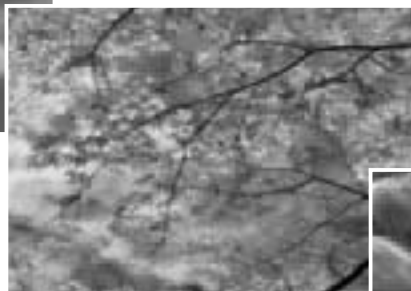
進捗管理体制

進捗管理は下記の事項で実施します。

- ・ PDCAサイクルの導入
- ・ 指標による進捗管理
- ・ 年次報告書（環境白書）の刊行
- ・ 市民参加による進捗管理

進捗管理の実践

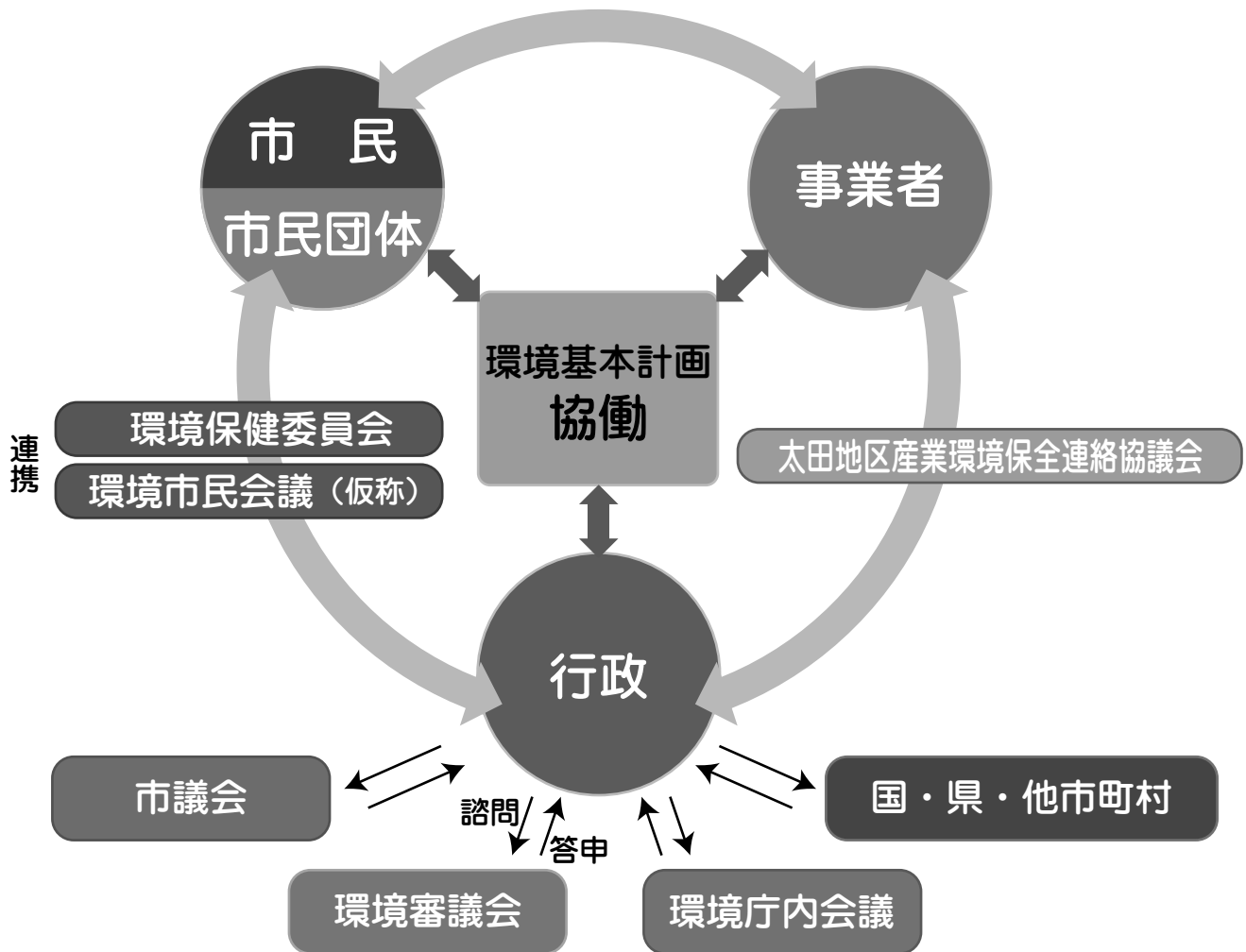
太田市環境基本計画の進捗管理表・年度進捗管理表に基づいて目標達成に向けて、進捗管理を実践します。



環境マネジメントシステムの構築

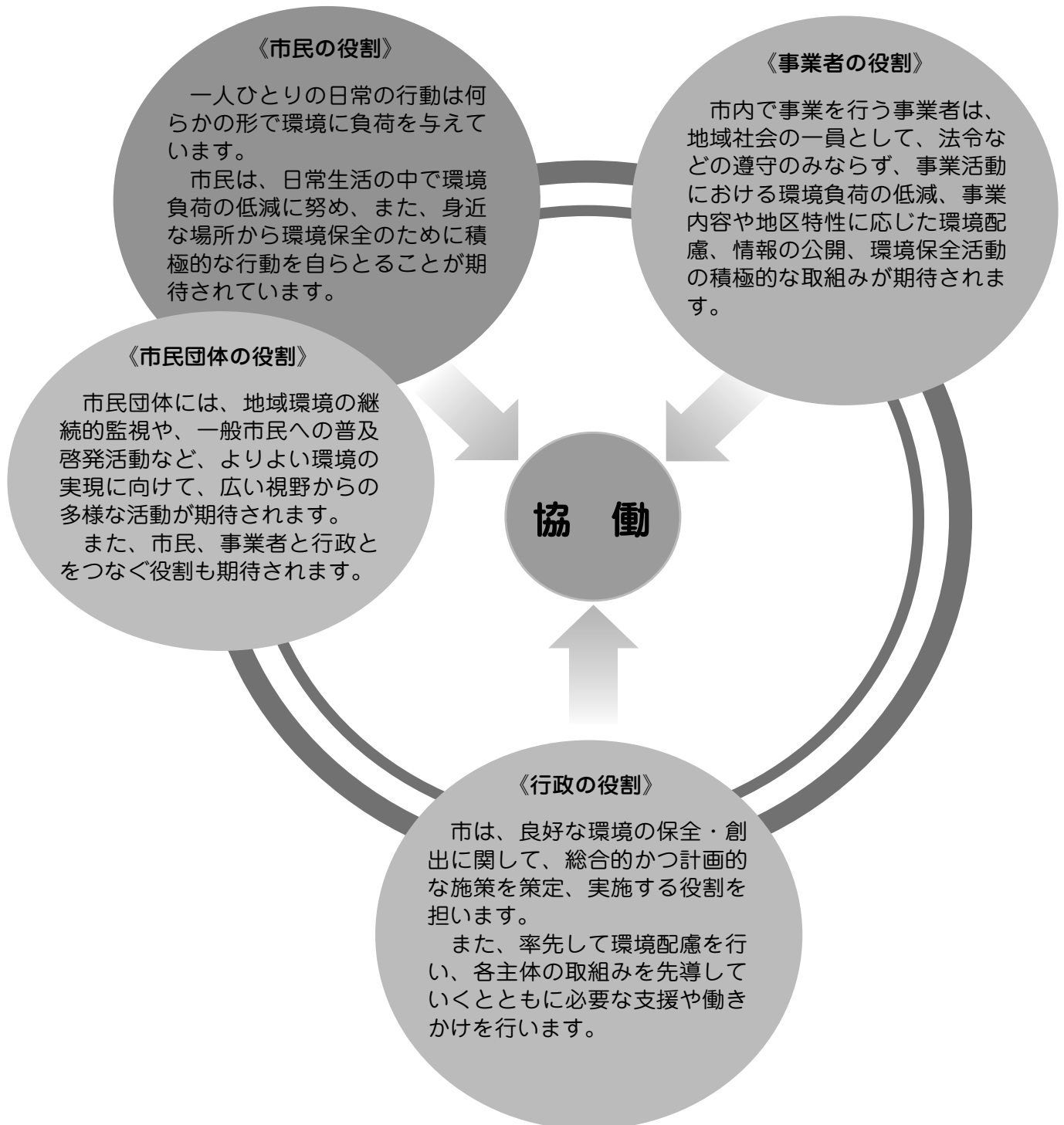
計画の推進体制：環境基本計画を具体的かつ効率的に推進していくために

推進体制



各主体の役割：「協働」の考えのもとに連携、そして役割を果たします

よりよい環境づくりのためには、市民、市民団体、事業者、行政が「協働」の考え方のもとで、適切な連携を図りつつそれぞれの役割を果たしていくことが大切です。



進捗管理体制

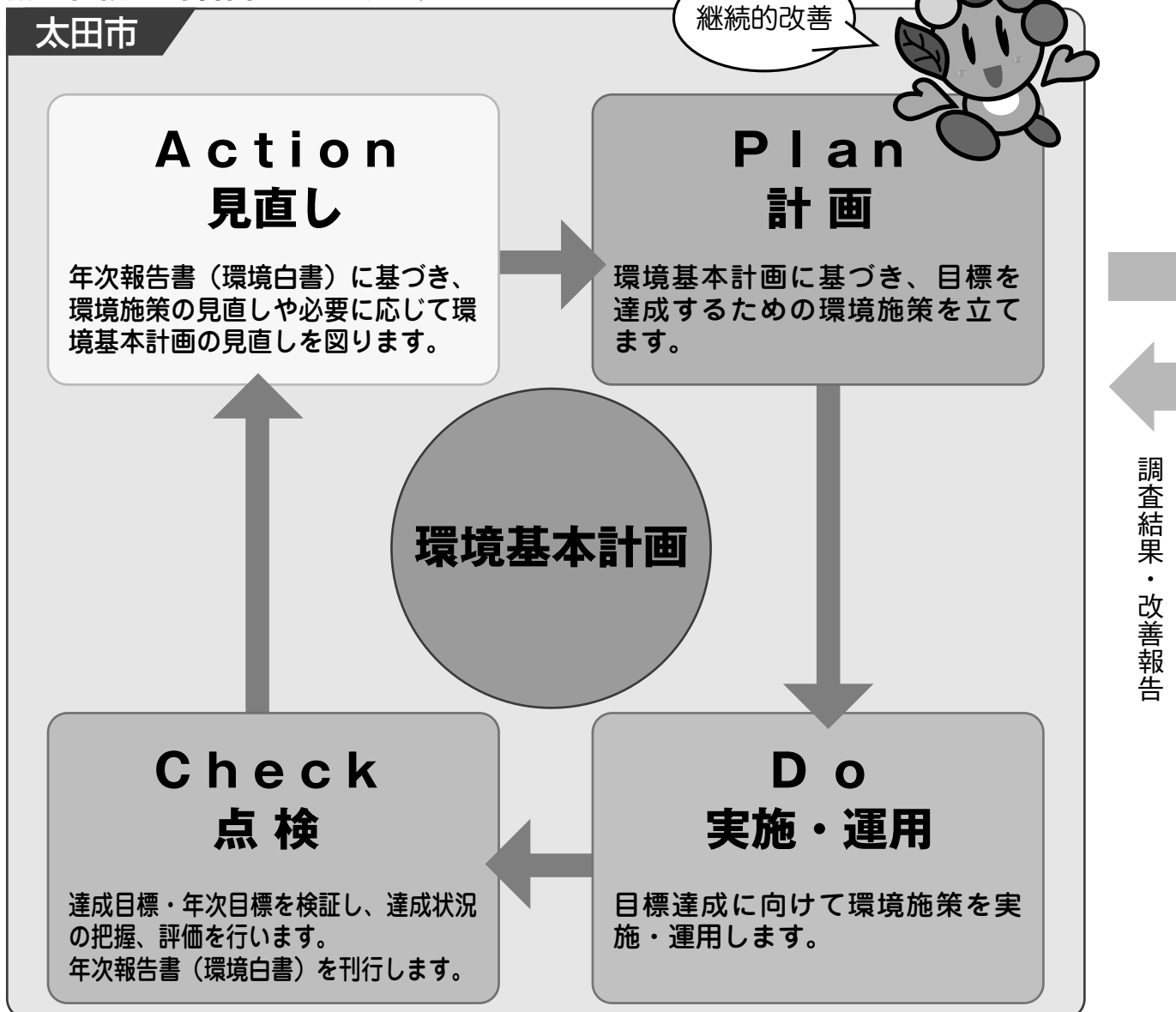
推進体制のあり方：『着実に成果をあげているまち』になるために！

環境基本計画を具体的かつ効率的に推進していくためには、国、県などの関係行政機関、近隣自治体との連携を強化するだけでなく、市民、事業者の主体的な参加と実践が必要不可欠です。

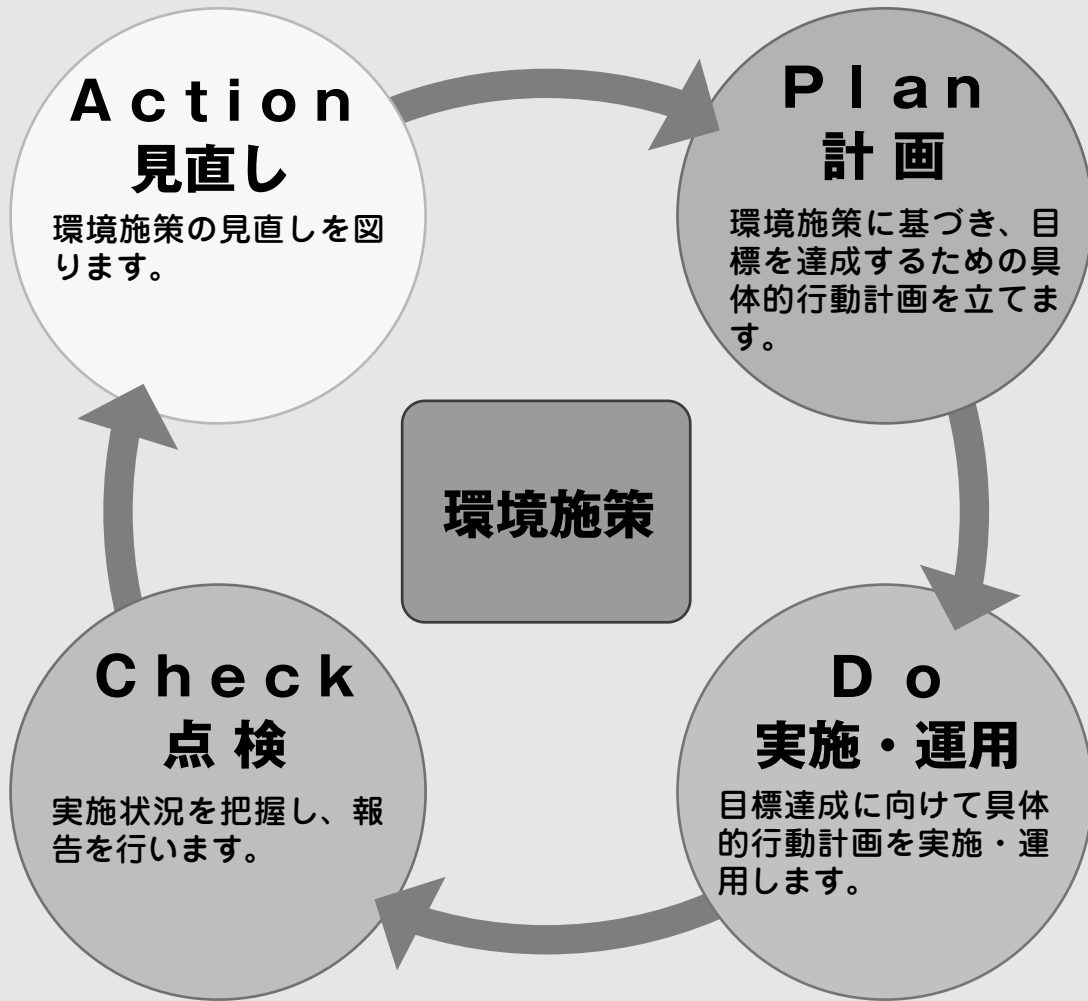
また、市は、各施策の進捗状況について環境審議会に報告し、意見を求めるなど適切に点検・管理するとともに、定期的に見直しを行い、計画の目標達成を可能にするために、一連の環境マネジメントシステムを実践していきます。

市は、「環境基本計画PDCA（Plan・Do・Check・Action）サイクル」を構築し、計画通りに実施できたかを点検し、改善策を講じながら、PDCAサイクルを回していきます。

太田市環境基本計画 PDCA サイクル



行政各部署・市民・市民団体・事業者

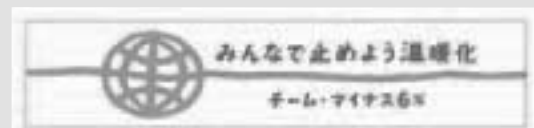


太田市役所は「ISO14001」を 認証取得しています

ISO14001とは、国際標準化機構（ISO、International Organization Standardization）が発行した、環境マネジメントシステムに関する国際規格です。

環境マネジメントシステムとは、環境負荷や環境リスクの低減を達成することを目的とするシステムであり、そのための活動（環境レポートの発刊による情報公開など）を継続し改善していくことが求められています。

太田市役所は「チーム・マイナス6%」に 参加しています



平成17年4月から、国民一人ひとりの具体的な温室効果ガスの削減行動に結びつけ、ライフスタイル・ワークスタイルを変革する国民運動として「チーム・マイナス6%」が始まりました。

進捗管理の実践

行動の取組み状況を定量的に把握し、環境活動の方向性を検証しています。

太田市環境基本計画進捗管理表

環境みらい像	環境への取組み	環境項目	基準		単位	
			基準年度	基準値		
地球環境の 保全	温室効果ガス排出抑制	年間 CO ₂ 排出量	H16	0.0	%	
				224	万 t-CO ₂	
	省エネルギー化の推進	省エネルギー率	H16	—	%	
				—	万 t-CO ₂	
	新エネルギーの導入	太陽光エネルギー	H16	600,000	kWh/年	
		天然ガス		27,340	千 m ³	
循環型社会の 構築	ごみ減量	ごみ減量率	H16	0.0	%	
		ごみ排出量(家庭系ごみ)		59,383	t	
	リサイクルの推進	リサイクル率	H16	12.4	%	
みどりの保全と 創造	みどりの保全と創造	公園面積(市民1人あたり)	H18	13.0	m ²	
		新田地域湧水地保全整備	—	—	—	
		自然環境実態調査	—	—	—	
	環境美化・環境保全活動の推進	ポイ捨て防止活動地区	H17	16	地区/年	
	生活環境の保全	環境基準の達成	—	—	—	
		(苦情件数)	H17	300	件/年	
		(大気)光化学オキシダント(予報発令基準を超えた日数)	H17	2	日/年	
		(大気)ダイオキシン濃度	環境基準値	0.6	pg-TEQ/m ³	
		(水質)BOD：達成箇所数 / 調査箇所数	H17	22.7	%	
		(水質)事業所排水	行政指導基準検査の実施(7地点)	—	—	回/年
		(水質)足尾銅山の坑排水	降雨(洪水)時などの水質検査	—	—	回/年
		(水質)下水道などの普及率の推移	H18	61.0	%	
		(騒音・振動)環境騒音：達成箇所数 / 調査箇所数	H16	昼：71.4 夜：28.6	%	
		(騒音・振動)道路騒音：達成箇所数 / 調査箇所数	H16	昼：100.0 夜：83.3	%	
		(騒音・振動)道路振動：達成箇所数 / 調査箇所数	H16	昼：100.0 夜：100.0	%	
		(騒音・振動)自動車騒音：自動観測設置率	H18	29.4	%	
		(悪臭)規制基準の達成	—	—	—	
		(土壌汚染)規制基準の達成	—	—	—	
		(地盤沈下)水準点観測：達成箇所数 / 調査箇所数	—	沈下量 10mm未満	%	
		(地盤沈下)地下水位観測	S56	±0	m	
(地盤沈下)地下水汲み上げ量		H17	26,250	千 m ³		
(アスベスト)水道管布設替え	H18	170	km			

成果の検証と改善

着実に成果をあげているまち

進捗管理年度									目標年度(値)	
平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
									14.3	
									192	
									12.6	
									21	
									6,000,000	
									100,000	
									39.0	
									36,224	
									30.0	
									14.0 (H23)	
				毎年調査・工事					→	実施
				監視・調査					→	実施
				毎年 16 地区					→	16 地区継続
				経年的な監視や調査					→	達成
									減少	
									減少	
									基準値以下	
									向上	
									14	
									継続	
									70.0 (H23)	
									向上	
									向上	
									向上	
									100	
				監視・指導					→	指導継続
				監視・指導					→	指導継続
									100	
									上昇	
									抑制	
									0	